

令和6年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の 重点目標	① 各教科等における授業・実践力の向上 ② I C T環境を積極的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③ 生徒指導における規範意識の向上及び多様な背景をもつ生徒に寄り添った指導・支援の充実 ④ 一人一人に応じた自立活動の充実及びキャリア教育の推進 ⑤ 地域および関係機関との連携強化及び社会参加に必要な資質・能力の育成 ⑥ 基本的な感染症防止対策の徹底 ⑦ 教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境整備		
※以下の各項目（分掌）の重点目標は、上記の「本年度の重点目標①～⑦」に関連した内容を設定した。 どれに関連しているかを下記の「重点目標」の末尾に番号で示した。			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	経過報告と今後の課題
学校生活の 充実 (高等部)	「生活自立」 と「職業自立」 に向けた教育 活動の充実	・「生活自立」への学びを充実させるために、教科会等で授業改善に関する方策を検討する。 ・教務部や各教科主任と連携し教科横断的な視点で年間指導計画を見直す。 ・生徒指導部と連携し、「スマホの使い方」と「登下校中のマナー」について有効な指導方法を検討し、実践する。 ・「授業（工業）改善アドバイザー」から助言を得ながら、より実践的で効果的な「職業自立」に向けた授業改善を行う。	工業、流サの教科会では話合いの軸を教務主任から担当主任に伝えて実施、継続的に実践が積み重ねられた。指導内容・様子の記録を丁寧にとり、引継ぎの工夫をする班もある。具体的指導場面での引き上げ力向上を目指す。 生活力向上を目指した話題を提供し、各学年など小集団での話合いは進んでいる。5教科等の教科担当者や教科主任での話合いの時間設定をし、教科学習を生活につなげるための方策を具体化する。 9月より月2回の乗車指導を実施し、乗車マナーや安全な登下校について指導につなげた。SNSの利用を含めたマナーについて指導を継続したい。
	①③		
学習指導の 充実 (教務部)	個に応じた学 習指導の充実 を図る。	・各教科における身に付けたい力を検討し、段階表に反映させる。 ・工業における認定タグの意義やあり方を見直し、指導方針を統一して授業を展開する。	現職研修や教科会において、各教科で身に付けたい力について検討する機会を設けた。研修や会議の記録からは、各教科で目指す具体的な生徒像を読み取ることができた。今後は、卒業生の実態から必要な情報も活用し、個々に必要な力を具現化していけるとよい。 職業教育では、年度末の職員アンケートにおいて94%の職員が「認定タグの基準を把握している」と回答した。今後は、個々の目標や様子について情報を引き継ぐための手だてを施し、多角的かつ継続的な指導が展開できる体制の構築につなげたい。
	①④		
学習指導の 充実 (総務部)	I C Tの利活 用のための環 境整備、啓発 を行う。	・I C Tの利活用のため、環境を整備したり、情報提供や研修等を行ったりする。 ・校内でのI C T活用状況を確認し、使えていない、または苦手な教員へのフォローを行う。	教材室などの環境整備を行い、職員が使いやすいように整えた。また、夏季休業中に普段のICT関係の困り事を質問する日を設け、困り事を解決できるようにしたり、来年度有償になるロイロノートの研修（基礎、応用編）を行ったりし、利用促進につながる取組を行った。 パソコンの更改では、データ移行を行い、利用方法を周知した。まだ利用に関して問題が出ることもあるので、今後も職員への情報提供や研修を行い、利用方法を周知できるとよい。
	②④		

特別支援教育の専門性の向上 (研修部)	教員の資質向上のための研修体制を整え、自立活動の充実を図る。	・現職研修及び教職経験者研修を核として、計画的に研修会を実施する。 ・外部専門家活用事業を通して個に応じた具体的な指導の充実を図る。	外部専門家活用事業を通して、事例検討会をすることで、一人一人の生徒に対しての指導内容の充実を図ることができた。また、研修内容を教科会で情報を共有することで共通理解を図ることができた。 抽出自立活動で指導した内容の共通理解を図り、教育活動に活かすことに関しては、来年度以降の課題といえる。
	②④		
生徒の安心安全を守る体制づくり (生徒指導部)	本校のいじめ防止対策について全職員が共通認識をもったうえで事案に対処する。	・いじめ防止基本方針の内容等について校内で研修を行い、周知する。 ・生徒の心身の変化をこまめに把握し、相談の機会を設け、悩みの早期発見に努める。 ・外部講師等を活用し、SNSの危険性や正しい使用方法について学ぶ機会を設ける。	いじめ事案が発生した際には、組織的に対応し、経過観察についても丁寧に行うことができた。未然防止対策としてSNSの適切な使用の仕方や登下校指導を定期的に行っているが、生徒同士のトラブルがいくつか発生している。良好な人間関係を築くための取組を今後も継続する必要がある。
	③⑤		
	生徒心得について、よく理解し、実践する。	・全校朝礼や全校集会等で生徒指導主事からルールやマナーについての指導をする。 ・意識調査や学習プリントを通して、実態や習熟度を把握し定着が図れるように継続して指導する。 ・外部講師による人権講演会や性についての講話等を実施する。	生徒心得については理解している生徒がほとんどであるが、実践できている生徒は一部である。ルールを守るべき理由を生徒が理解することで、規範意識はより向上すると考えられる。
健康の維持増進 (保健体育部)	安全に関する教育を推進する。	・「実験・実習の安全管理マニュアル」を作成していく中で学習活動における安全について職員に周知・徹底をする。 ・職員向け「KYT（危険予知トレーニング）研修」を実施し、安全への意識を高める。また、生徒向けの実施に向けて審議・検証を重ねる。	工業の生徒にアンケートを実施。「KYTやヒヤリハットをやって、安全に対する意識が高まったと思いますか？」 ・思う … 58% ・思わない … 7% ・どちらでもない … 35%
	①③		
進路指導の充実 (進路指導部)	キャリア教育推進と生徒の社会参加に必要な資質・能力を育成する。	・学校見学や職員業務体験を積極的に行い、企業への障害者理解を進めるとともに、職員の進路意識および指導力の向上を図る。 ・学校HPの進路内容の充実を図るなど、保護者に情報提供するとともに、組織的・継続的に進路指導が行えるようにする。	2,3年生を担当している職員を対象に、企業における職員業務体験（3件）を実施した。2年生の現場実習先の確保や3年生の就労につなげることができた。 1学期の終わりと3学期当初に進路だよりを発行し、進路行事や働くための力について保護者、生徒向けに発行した。 企業の方がHPを見てから連絡されることもあったので、進路指導のページに企業の方にも分かるよう目標を載せた。 障害者雇用率が上がってきているため、学校見学の申込は昨年度より増え、現場実習につなげることができた。 全体を通して、企業へのアピールはできたが、職員向けの発信が少なかったため、来年度は業務体験を行った職員が発表する機会等を設けたい。
	④⑤		

健全な職場環境づくり (教頭)	働きがいを感じる職場環境をつくる。	・業務改善等の参考になる好事例を紹介する。また、業務内容の可視化を推奨する。 ・ベテラン教員と経験の浅い教員が協働できるような運営体制をつくる。 ・新転任者に向けた資料等を見直し、本宮校舎の教職員として一日も早く慣れ、戸惑うことなく業務に集中できるようにする。 ・環境整備、リフレッシュ活動など互いの理解が深まるような活動を工夫し取り組む。 ・部会や学年会等で生徒の成長した面を取り上げ、何がよかったのかを共有する。	アンケートの結果、15名（有効回答数17名／27名の教員・実習助手のうち62%）が、「学び合うことや協働を意識して授業や指導にあたった」「結果的に学び合うことや協働することができた」と答えた。主任だけでなく、授業担当者間で話し合い、授業をよりよくしようとしていることが分かった。 一方で、「時間的なゆとりがもっとあるとよい」「心の余裕がない」など、協働の難しさを訴える意見も寄せられた。
	⑦		
総合評価		今年度新たな取組として、安全教育に力を入れてきた。まだ試行錯誤の段階ではあるが、効果的な実践が定着してきている。形を残すことが目的ではなく、教師が教育的な意義を十分に理解したうえで、継続・発展させていきたい。その他の校務については、前年度を土台とした取組ではあったが、少しずつであっても改善、発展させることができています。大きな成果を得ることは簡単ではないが、それぞれの部署が、それぞれの取組を理解し合い、一致団結して学校運営にあたりたい。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	・生活自立に向けた指導の充実 ・規範意識の向上を目指した取組
自己評価結果について	・教科指導の充実（教務主任） 卒業後の生活を見据えて、「各教科の学習を通して、どのような力を身に付けさせたいのか」を教科担当者間で話し合った。学習指導要領で示されている目標に加え、本校の生徒実態を踏まえ、「各教科が担う役割」について明確にし、整理し、同じ目標を担当者間で共有することができた。 職業自立に向けて、「タグ」の認定基準について整理した。開校16年を迎え、職員の入替わりによって、認定基準があいまいになったり、職員によって認識が異なっていたりしたため、改めて、基準を明確にし、すべての職員が生徒に同じ説明ができるようにした。また、担当者とのコミュニケーションを通して、より自己理解を深めることを目的として、作業日誌の様式を見直した。書くことに苦しさを感じている生徒が多く、書くこと自体に時間を要していたり、毎時間同じ内容を記載していたりする様子が見られていた。振り返り（反省）欄への記入を簡略化することによって、授業担当者と共に振り返る時間を十分に確保することができ、生徒自身の自己理解につながった。
	・いじめ防止、望ましい人間関係の構築（生徒指導部） 「オアシスタイム（生徒が職員を指名し、部活動の時間に悩みを相談する）」の利用を広く促した。その結果、4名の生徒が申し込み、実施に至った。悩みを抱えている生徒は多くいる。その利用機会を増やすことによって、精神的な苦痛や負担が低減されるとよい。 外部講師を招き、人権講話を実施した。講師から「人の幸せを邪魔する権利はない」といった分かりやすく、生徒の心に届くような表現を用いて話をしていただいた。 教師の目が行き届かない登下校時、着替え、休憩時間などで、できる限り見守り、トラブルの未然防止に努めた。登下校時の乗車指導、立ち番などを通して、社会でのルールやマナーについて繰り返し指導した。まだ、十分に定着したとはいえず、今後も引き続き、指導を継続する必要がある。

その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	【企業の方からより】 ・ 更に上を目指そうとする先生方の意気込みを感じる。 ・ 会社でも、学校と同様の悩みを抱えている。ハラスメントやいじめ、SNS によるトラブル。特に、ハラスメントは、どんなことでも「〇〇ハラスメント」と名がついてしまう。ただ、時代の変化に対応する意識は常に必要だと感じる。 ・ 本社では、月に1回KYTに全員参加している。現場の写真を見ながら、危険予測をしている。またヒヤリハットは、2月ごろに一年間のものをまとめて、①命にかかわるような重大事案、②労災の対象となるようなけが、③軽微なけがの3種類に分類する。4月からすぐに改善できるように準備しておく。毎年200件程度の案件が挙がる。毎年続けていくことで、意識を高めている。 ・ 乗車指導は必要であると感じるが、先生方の負担増加が心配である。ただ、先生がいなくても、ルールを守り、節度ある行動をとることが求められるため、非常に難しい課題であると感じる。 ・ タグに関しては、職員間でばらつきのないようにしていただくのは大変よいこと。ばらつきによって、生徒が不信感をもつことになる。 ・ 近年、社内で人とかかわりを避けようとする社員がいる。「3つの価値観」として、入社時から示している。①自分で考えて行動すること、②お互いに助け合うこと、③経験を広げて、学び合うこと。若い世代が意識して行動すれば、ベテランにも波及していく。 【社会福祉法人の方より】 ・ 生徒指導主事の話「人を思いやる」「他人の幸せを邪魔しない」という考え方はとても大切である。 ・ 卒業後の離職に関しては、半数が「仕事がうまくいかない」。そして半数が、「人間関係のトラブルと家庭環境」が原因である。卒業後の家庭のフォローが重要である。 ・ 豊川市内で企業座談会を行った際、「工業の授業改善を目的とした企業の学校見学」について、OSG からよい返事をいただいた。 ・ 130社からの回答を得た雇用調査では、約70%の企業が、「社内見学は可」と答えている。当法人でも、月に1回の企業見学会を実施している。利用者も職員も、より具体的に働くことへのイメージをもち、就職への意識が高まった。 ・ 「ブリジストンチャレンジド」（特例子会社）では、同系列の「タイヤ館」内の清掃を行っているが、特別支援学校、特別支援学級の児童生徒を対象に体験会を実施している。学校に来校して清掃活動に取り組むケースもあり、学校や生徒にとって有益な取組だと感じている。 【大木町内会長より】 ・ 一宮西部小学校の近隣に立っていると、元気に挨拶をしてくれる。挨拶は、コミュニケーションの土台である。町内会でも挨拶ができない、人と関われないといった住民が増えてきている。 ・ 授業参観の際、木工班で、糸鋸が外れている生徒がいた。2回挑戦しても改善されなかったため、「2回やってもうまくいかないなら、先生に聞いた方がよい」と伝えた。会社では、どんな些細なけがであっても上司に報告する。けがのないように、生徒自ら申し出ることが習慣になるとよい。 ・ 商品価値を高めるこだわりは必要。新入社員研修の一環として、紙細工を見せ、「これは買っていただける商品であるか」という視点で論じ合うことがある。どのような商品に価値があり、お金を支払う価値があるのかを、生徒が理解できるように、対話を通して学ぶことができる」とよい。 【豊川商工会の方より】 ・ 校外学習は、「地域を知る学習」として、豊川市内の企業や観光名所について学ぶ活動と聞き、大変よい活動であると感じた。門前町（豊川稲荷商店街）は一つになったので、訪れ
------------------------------------	---

	る前に連絡をしてほしい。歓迎する。 - 支援学校を卒業して就職しても、離職してしまう者も一定数いる。辞めた者への支援体制を十分に整えていただき、スムーズに再就職できるようになるとよい。 【一宮商工会の方より】 朝、近隣で挨拶運動をしていると、小学生、中学生、高校生、特別支援学校の生徒、たくさんの方の児童生徒の往来がある。横断歩道を渡る際、車は停車し、しばらく待つことになる。手を上げて、ドライバーの顔を見て、軽く会釈できると、待っているドライバー、地域住民も気持ちがよい。 - 木工製品を見ると、焦げや隙間が目立つ。具材の下加工を均一にしておかないと、精工に作ろうと、どれだけ努力しても、良い物は出来上がらない。 - 丸のこ盤の扱い方について、コンセントを先に差すのではなく、抜いてある状態で、具材の位置等を調整し、調整できた後に、コンセントに差し、電源を入れる。現場で大きな事故を見てきたため、けがには十分に注意してほしい。 【PTA 会長より】 - 学校には、よりよい教育を行っていただき感謝している。 - 不登校生徒の数がどの程度なのかは不明であるが、それぞれの生徒の成長を期待し、4月に全員がそろって新しい年度を迎えられるとよい。
今後の改善方策について	- 企業の方から助言を受け、より実践的で、より社会状況に合わせた授業環境を設定する。 - 安全教育を充実させるとともに、危険な器具の扱いについて職員の研修の機会を設定する。 - 生徒自身が、周囲に相談したり、支援を求めたりするような場面設定を行う。 - 登下校時のマナー指導の機会を増やす。 - 授業前に下準備を十分に行い、精巧な製品に仕上げられるようにする。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	- 構成 企業関係者、社会福祉法人関係者、豊川商工会、一宮商工会、大木町内会、PTA会長 - 評価時期 2月下旬

(5) 経営管理上の問題点等

ア 生徒・保護者に寄り添い、個に応じた指導と協働的な学びの充実を図る。

イ 地域資源を生かした学習活動の充実と実施方法を工夫する。

ウ 登下校時のマナーを守るとともに、インターネットやSNSなどに伴うトラブル防止の指導を充実させる。

エ 安全・安心な環境を整備するとともに危険予知ができる力を養う。また、トラブルが生じた際は、自ら周囲に相談したり、支援依頼をしたりする力を養う。